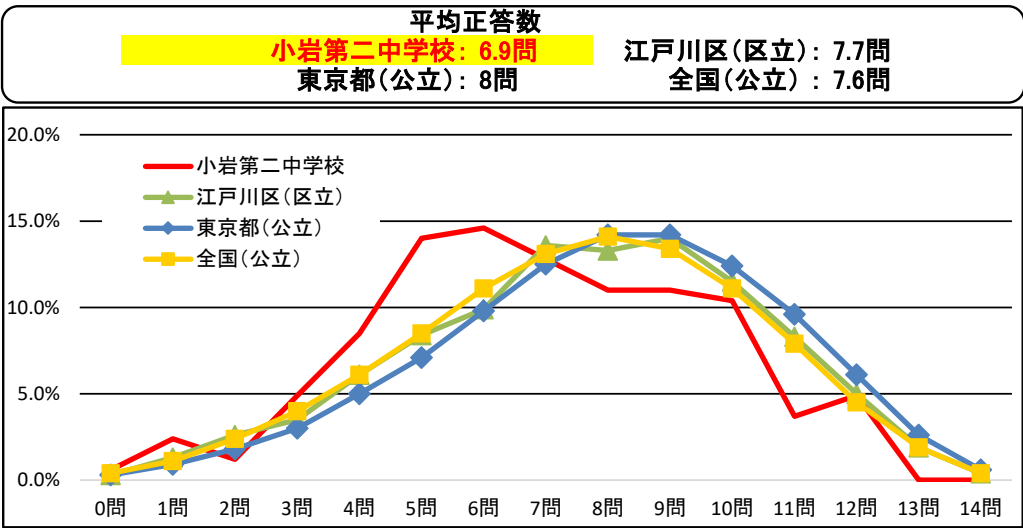


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 小岩第二中学校

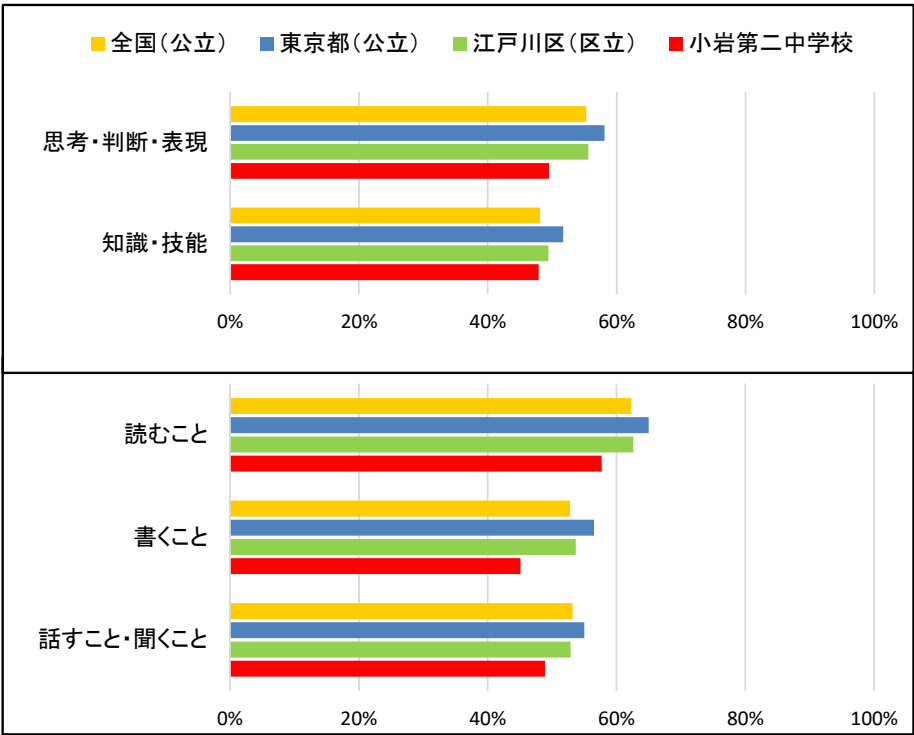
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

小岩第二中学校	49%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-8.0

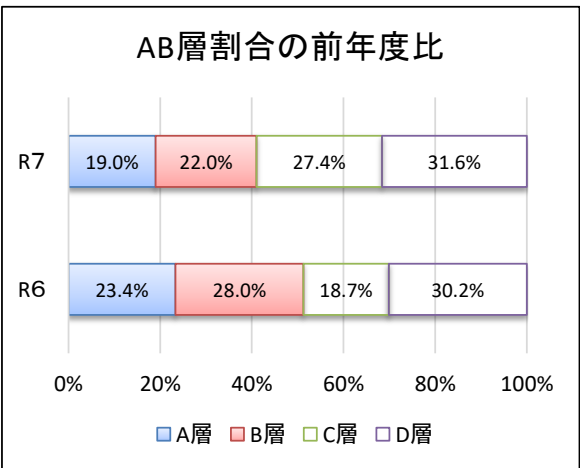
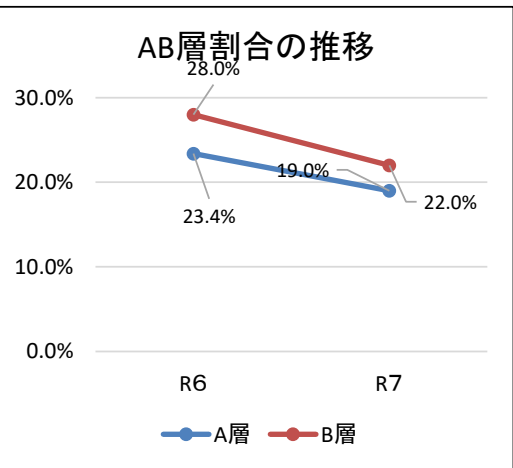
「領域別」の結果



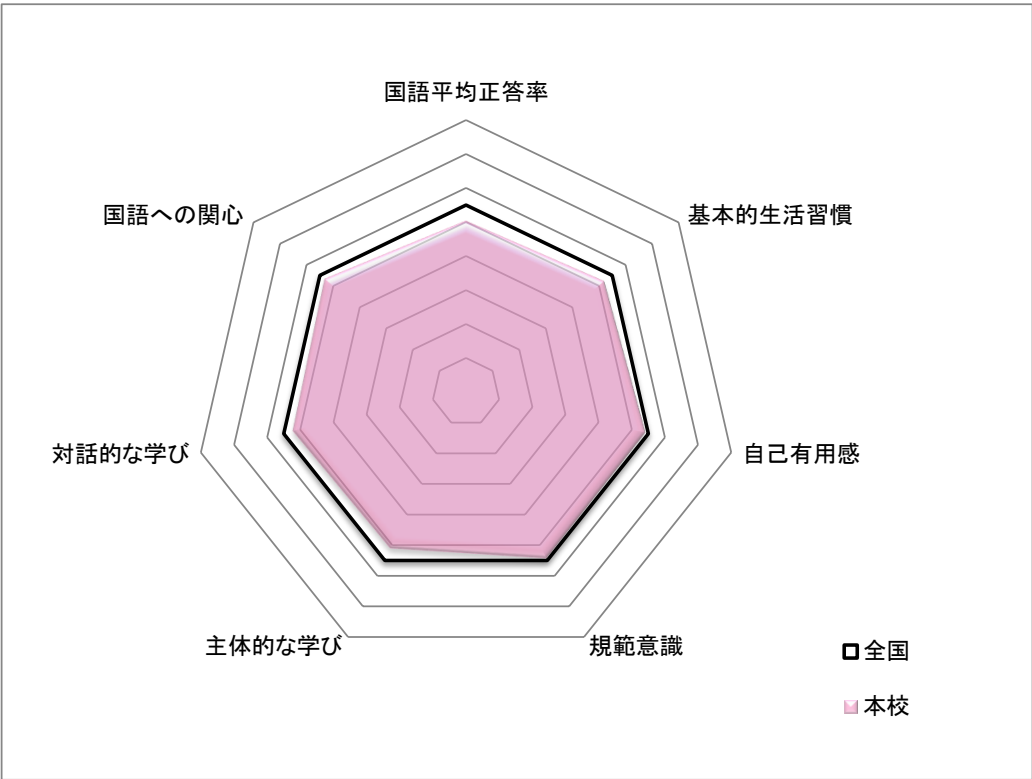
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

国 語	上位 ←		→ 下位	
	A 層 10～14問	B 層 8～9問	C 層 6～7問	D 層 0～5問
小岩第二中学校	19.0%	22.0%	27.4%	31.6%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全体に、平均よりやや小さなチャートになっている。規範意識や自己有用感は平均的だが、その他の正答率、国語への関心、対話的な学び、主体的な学び、基本的学習習慣などは平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭での学習時間などが少なく、タブレットの使用などに時間をとられている現状がある。宿題などの課題を確実にやっていく習慣、日々の授業の復習する習慣をつけるように呼びかけていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
B層が22パーセント、A層が19パーセントとA層よりもB層が多い結果となっている。前年から両層の残隊に占める割合が下降している。また、学習の成果を伸ばそうとする意欲が全国平均と比較して少なく、CD層が全国平均よりも高い。個別対応が必要な生徒が多いため、全体的に正答率が低くなっている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

区中研などを中心に、教科指導の研修を受けている。また、他の学年の同じ教科の授業を定期的に見合い、お互いの改善点などを伝えあい、授業力向上に取り組んでいる。

・基礎学力の保障

定期的に漢字テストや作文指導を行い、繰り返し学習をする習慣をつけている。

・学習習慣の確立

CD層を対象に、放課後補習教室などを行っている。定期考査前に学習計画表を作成し、学習時間や内容を記述し、自己を振り返らせている。

・AB層の育成

AB層を増やすために、読むこと自体に抵抗がないようにC層に働きかける必要がある。3年生を対象に、「受験対策講座」を実施し、得意分野を増やしていく。